

# ホソカワ粉体工学振興財団 創設20周年を迎えて

ホソカワミクロン株式会社 粉体工学研究所 フェロー  
公益財団法人 ホソカワ粉体工学振興財団

事務局長 横山 豊和

## 1. はじめに

当財団は、ホソカワミクロン(株) (以下、ホソカワミクロン)の社長(当時)細川益男氏(故人)が、1992(平成4)年のホソカワミクロン創業75周年記念の節目に私財を投じて設立した法人で、学術の振興、特にホソカワミクロンが1916(大正5)年の創業以来取り組んできた「粉体技術」に関する学問分野である「粉体工学」の振興を通して、社会に少しでも還元したいとの強い思いの下に設立された財団法人である。当財団は本年創設20周年を迎え、また内閣府から公益財団法人として認定されたことなどから、その設立の趣旨、事業内容などを紹介したいと思います。

## 2. 創設者 細川益男氏のことば(抜粋)

衣・食・住や医療など、我々の日常生活で身近に氾濫しているいろいろな製品に、また、未来に向けて開発されようとしている新素材における高純度化、微細加工等の技術、さらには世界的規模において問題視されている環境破壊、特に大気汚染に対する防止等、あらゆる産業分野に粉体技術は重要な役割を果たしております。粉体工学は、これら粉体技術を基礎的に研究し、開発する学問分野であります。

(中略)

粉体技術に対する社会のニーズは、ますます大きく、また高度化し、その基礎となる粉体工学の重要性もますます高くなっています。私といたしましては、いささか

の私財を学術振興、特に粉体工学を通して社会に少しでも還元できればと望むものであります。

以上の趣旨から、**わが国ならびに世界の粉体工学に対する助成を主目的とし**、合わせて粉体工学に関連する優れた研究・成果に対する褒賞、国際交流に対する援助、研究発表・シンポジウムなどの開催およびその援助等の諸事業を目的とする財団法人ホソカワ粉体工学振興財団を設立し、粉体工学ならびにその周辺学術の研究の発展に寄与しようとするものであります。学術振興のもたらす社会への貢献は、人類のみならず、人類をとりまく美しく豊かな自然界にとっても、よりよい環境に導いてくれるものと確信するものであります。

(後略)

## 3. 主な事業

当財団の主な事業である粉体工学に関連した研究の助成や褒賞授与などの助成事業については、毎年7月に応募を締め切り、年内に受賞者を決めています。本助成事業は、世界中の若手研究者を中心に研究助成や褒章を行ってきており、これまでに700件以上の各種支援を行っています。

これ以外にも、自主事業として毎年、大学や企業の研究者を講師に迎え、一般に広く参加者を募って開催する「粉体工学に関する講演討論会」をはじめ、今や海外でも「KONA」で通用するようになった年刊英文技術誌「KONA Powder and Particle Journal」を発行しています。

講演討論会は、1957(昭和32)年に大阪市内に設立

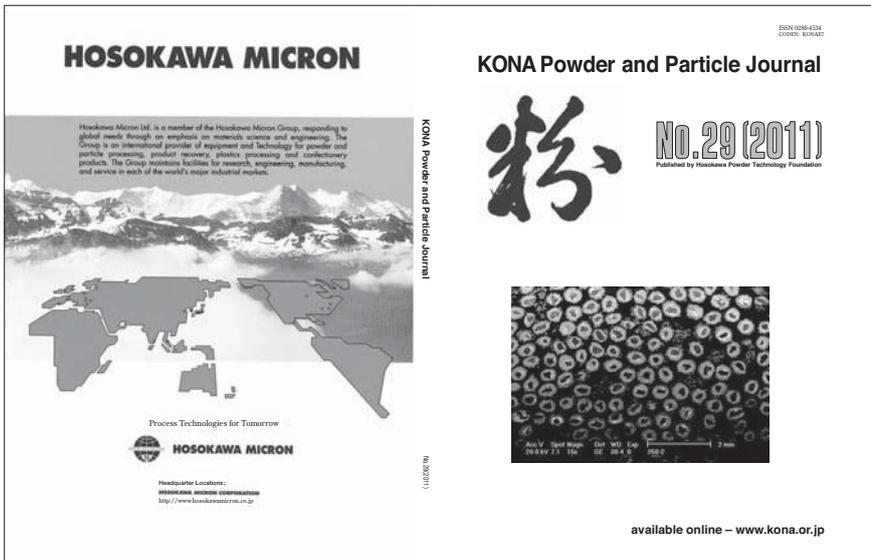


写真1 KONA誌

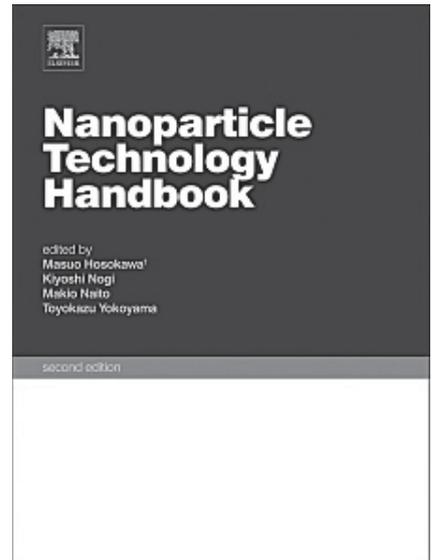


写真2 ナノパーティクル テクノロジー  
ハンドブック

されたホソカワミクロンの粉体工学研究所が、現在本社がある枚方事業所に移設（新築）されたのを記念して開催されたものですが、非常に好評だったため、現在までほぼ毎年続けられています。本年は9月に「ナノパーティクルテクノロジーの応用最前線」をテーマに、ホテルラフォーレ東京に150人近い参加者を集めて「第46回粉体工学に関する講演討論会」を開催しました。

KONA誌は、当財団創設以前の1983（昭和58）年に、ホソカワミクロンの粉体工学研究所から発刊された年刊英文技術誌で、その後、当財団が引き継ぎ、次号でVol.30となります。本誌は当初、国内から粉体工学に関する優れた論文を集めて海外に紹介することを目的としていましたが、Vol.8（1990）からは、欧・米・アジアの3ブロック編集委員会体制をとり、世界中から優れた論文を集めた国際学術誌として広く認知されています。また、Vol.21（2003）から電子ジャーナル化しており、現在、その雑誌がどの程度引用されているかのデータを基にして認知度が評価される「インパクトファクタ」が与えられるまでになっています。

また、1957（昭和32）年から毎年、ホソカワミクロンから出版されている粉体技術に関する技術専門誌「粉碎」の出版に関しても、企画をはじめ様々な形で援助しています。

更に、一般社会にナノテクの言葉が広がり始めた2006（平成18）年にホソカワミクロンがナノ・テクノロジーに関する世界で初めての「ナノパーティクル テクノロジー ハンドブック」（監修：細川益男社長（当時）、日刊工業新聞刊）を発行し、大学や産業界の研究者、技術者のみならず広く一般に喜ばれました。そして、翌年には技術書の発行で世界的に著名なオランダELSEVIER社から、これも世界で初めての英文専門誌“Nanoparticle Technology Handbook”が刊行されました。当財団は、このように技術専門誌の出版についても大きく貢献しています。

#### 4. おわりに

当財団は、ホソカワミクロンと連携しながら、粉体技術と粉体工学のグローバルレベルの発展に貢献すべく活動を続けてまいりましたが、特に来年は、創立20周年を記念しての記念講演会や若手研究者の研究助成などが計画されています。今後も当財団がより一層世界の粉体工学の振興に寄与できるよう、努力を続けていく所存です。

なお、当財団の組織や活動、並びにKONA誌のバックナンバーは、当財団ホームページ（<http://www.kona.or.jp/>）に掲載しておりますのでご高覧下さい。